

平成28年度 F3C ラジオコントロールヘリコプター日本選手権要項

日程およびスケジュール

10月6日(木)	受付、開会式：ホテルニューイタヤ 17時～17時30分
10月7日(金)	1ラウンド スケジュールP 41名 (目慣らし飛行あり)
8日(土)	2ラウンド スケジュールP 41名 (2ラウンド終了後成績発表、決勝抽選) 1, 2ラウンド(予選ラウンド)のベストスコア上位15名が決勝に出場する。 16位以下は予選ラウンドの成績で順位を決定する。
9日(日)	決勝1R、2RスケジュールF 15名 目慣らし飛行は予選16位の選手がおこなう。(1Rのみ)

競技は原則として予選1, 2ラウンドと決勝1, 2ラウンドをおこなうが、予選会期2日の内、天候の都合で**1日しか予選を実施出来なかった時は予選は1ラウンドのみとする。**

予選成績1位～15位までの選手は決勝飛行をおこなう。

予選ベストスコアと決勝1, 2Rをカウントした3個のスコアからベスト2個のラウンドのスコアを合計して順位を決定する。
16位以下は予選の成績で順位が確定する。

競技規則

FAI F3C2016年規定(2016. 1. 1発効)スケジュールPおよびF、平成28年度審査員講習会統一見解事項を含む。

演技時間の計測はP、Fともスタートサークルを出発した時から計測する。(スタートサークルでの時間が5分以内の場合)

スタートサークルで5分が経過した時点で演技時間の計測を開始する。

審査員の都合でスタートサークルからの出発が遅れる場合は計時を一時中断する。

演技時間：スケジュールP 9分、スケジュールF 9分。

スタートサークル準備時間(エンジンスタート)の計測は前の選手が、**P2**または**F2**の静演技の**終了後**、または前の選手がスタートサークルを出発して**6分後**、どちらか早いほうで合図をする。

機体検査

ジャイロについて：自動位置(緯度経度)固定装置ならびに高度保持装置は外部からの指示を利用するしないに関わらず使用を禁止する。

選手全員を対象に1ラウンドフライト終了後に機体検査を本部でおこなう。

2ラウンド目のフライトに1ラウンドと違う機体を使用した選手は、自発的に本部で必ず機体検査を受けて下さい。(搭載ジャイロの確認をします。)

採点および計算

採点は5名の審査員による一演技毎の上下カットを行う。

成績は2016年規定(2015年版)の1000分率(小数点以下2桁表示)で計算する。

飛行禁止空域侵犯をした場合はそのラウンドは0点となる。

タイムオーバーがあった場合は該当演技を含め以後の演技は0点となる。

同点の処理

1位と2位、8位と9位が同点であったときは次のように処理をする。

1. 複数のラウンドが終了している場合は捨てたラウンドの1000分率計算成績を加算する。
2. それでも同点が解消されないときは素点数の高い方を上位とする。
3. それでも、同点が解消されない場合はフライオフを直ちにおこなう。

選手権の成立

天候の不良で全ラウンドを消化出来なかった場合は、完全に1つのラウンドが終了していたならば、1つのラウンドだけで選手権は成立する。

中断について

1ラウンド目に天候不良のため競技が中断した場合、待機時間の合計が1時間を超え日の入り時刻までに全選手の飛行が完了しないと予測される場合は1ラウンドの中断としてラウンドの不成立とはしない。

この場合2日目のフライト順は抽選順ではなく、1ラウンドの中断後の選手からとする。

2日目の天候が良好の場合は中断後の選手からスタートし、一巡して全選手のフライトが完了出来た時は1ラウンド中断までの成績を破棄し1ラウンドを不成立として2日目のフライトを予選成立ラウンドとする。

例：1番の選手から開始して15番の選手のフライト後に中断して続行が出来なく翌日に持ち越した時、16番の選手からフライトを開始し、続けて15番の選手まで41名全員がフライトをする。

2日目の天候の条件が前日と変わらないときは様子を見ながら中断後の残りの選手のフライトを行い1ラウンドを成立させる。

例：中断後の16番の選手から開始して41番の選手までフライトをして1ラウンドの成立とする。

最終日は中断時間の合計が1時間を超えた場合はそのラウンドは中止とする。

雨天の場合：風が無く小雨の場合は競技を続行する(防水対策は選手個人の責任でおこなう)。飛行に際しトラブルが発生しても本部は責任を負いません。傘が必要な降雨の場合は競技を中断する。

安全について

平均風速8m/secが計測された場合および瞬間風速が12mを超えたときは競技を一時中断する。
その後15分～30分ごとに再計測して状況を見る。
風速8m以下でも雨で審査が出来ない場合は中断する。

遵守事項 (選手全員が公平に同一条件で競技に参加するための取り決めです)

スタートサークルでの飛行(高度2m、選手と機体の向きは離陸時の姿勢から180°を超えてはならない。)

違反があったときはそのラウンドは終了となる。

スタートサークルからヘリパッドまでの飛行は選手、機体とも15～20Rの進入経路に沿って高度2mで飛行する、選手と機体の向きは180°以内で飛行すること。

助手が機体を手持ちでヘリパッドまで運ぶことが出来る。

スタートサークルでの待機(前の選手が最後から3番目の演技が終了したら、機体を降ろし、エンジン回転をアイドルに下げる。電動機も同じく着陸待機のこと)

改正航空法で飛行高度は150m以下での飛行です。縦もの演技においては違反しないように注意して下さい。

騒音ペナルティについて

次の条件に一つでも該当した選手はペナルティ(減点)の対象となる

1. スタートサークル内での測定値が85dBA以上である。**87dBAを超えてはならない。**
2. 審査員の5分の3が飛行騒音を大きいと判断した場合は審査員同士が打ち合わせてその場で減点する。

燃料 :

電動機

外部電源の使用は禁止する。電圧は51V以下で選手が競技役員に電池電圧の確認をして貰う。

電池電源の接続はスタートサークルに入ってから役員の計時開始の指示で接続すること。フライト終了後の電池電源の取り外しはセフティライン(ジャッジライン)を出る前に行う。

障害でコントロール不能になった場合に電源が切れるように**フェイルセーフ**を設定すること。

ブレードを外した状態での設定確認テストを抜き取りでおこなう場合、選手は協力しなければならない。

電動機を使用する選手は各自、有効な消火器具をスタートサークルに持参すること。(役員確認)

上記は安全のためにFAI・CIAM・F3C委員会で2011年6月に制定されました。

発火事故が起きたときは消火に要した費用は当該選手が負担すること。

保険 **模型飛行士登録証を受け付け時に提示**して有効期間の確認を受けること。

人的、物的事故があったときは、その選手個人の責任で処理をすること。

競技フィールド

会期中、各ラウンド開始前の飛行を禁止する。違反者はそのラウンドには出場出来ない。

競技終了後は飛行場閉鎖時間まで、選手間の管理による練習飛行は出来る。

競技終了後の練習飛行は全選手が公平に練習が出来るように配慮してください。

表彰

平成28年度RCヘリコプター選手権では最終成績上位8位までの選手を入賞者とする。
(平成29年度予選免除)

その他、この説明で触れていない事項については**2016年競技規定(2016年1月1日改訂版)**および**統一見解**の解釈のとおりとする。

日本選手権抗議手続き規定

◆不服の申し立て: 選手は不服の申し立てを競技委員長に口答により行うことが出来る。

◆異議の申し立て: この件に関する競技委員長の裁定に不満の場合、選手は直ちに異議の申し立てを書面により保証金を添えて競技委員長を経由して陪審員に提出する事ができる。保証金は3万円とし、申し立てが承認された場合に限り返却する。

◆申し立ての提出期限

A) 競技開始前: 参加の有効性、競技者の資格、競技規則、飛行場、模型の検査、競技場、審査その他の競技役員などについての申し立ては競技開始の少なくとも1時間前までに行わなければならない。

B) 競技中: 審査員その他の競技役員による決定事項についての申し立て、あるいは他の競技者が競技中に犯した違反行為または不法行為についての申し立ては直ちに行わなければならない。

C) 成績発表後: 成績に関する申し立ては主催者が成績を発表した時から15日以内に行わなければならない。

飛行受付、送信機の保管

競技開始前に飛行受付すること。72MHzおよび40MHzの選手は送信機を預けること。2.4GHzは保管しない。

電波を発射できる送信機は競技飛行中の選手とスタートサークルで待機している選手のみである。

休憩: 6名ごとに5分間の休憩をとる。ただし選手は3分前からスタートサークルで待機しスタートの準備をする。

スタート順の抽選

1ラウンド目の1番目にフライトする選手を抽選する。2ラウンド目はプラス21番目の選手からフライトする。

決勝ラウンドの飛行順については出場15名が決定した時点で公開抽選を行う。